

自由記述表

問3

(作成されていない場合は作成しない、若しくは作成出来ない理由をお教えてください。)

- ・研究科については、現在改組進行中であり、改組完了（平成9年度見込み）後作成する予定である。
- ・現在、一部科目についてシラバスを作成しているが、平成9年度からはカリキュラムの全面改定をひかえているので、全科目についてシラバスを作成する予定である。
- ・カリキュラムの移行期間であるため。現在、作成する方向で検討している。
- ・現在、本学部では教育課程見直しの検討作業が進められている。それに伴い開設科目全般に渡っての見直しが行われており、新カリキュラム移行により開設科目が確定した段階でのシラバス作成を検討しているため。
- ・現在、本研究科の改組が進行中であり著しく授業科目の変更が行われているため。
- ・「履修要項」で授業科目内容を100字以内で説明。授業の初めに授業科目内容、テキスト等について詳細に説明。
- ・学生便覧等に簡単な授業内容の案内をのせているが、本格的なシラバスはまだ作成していない。生態環境科学専攻の場合、各研究室が学内のいくつかの場所に散在していることもあり、統一的な講義計画をたてにくい現状である。しかし、研究科が設立されて3年になろうという現在、近い将来より具体的なシラバスを作成したいと考えている。
- ・4月当初計画された授業科目の開講時期および単位の授与方法等が学生が取得する副免の関係等により変更するので、作成したシラバスの活用方法が限定される。
- ・単位性をとっておらず、従って授業形態がないため。
- ・学位論文作成に必要な研究指導のみ行っている。
- ・教育方法は研究指導によって行われており、授業科目を開設していない。
- ・本研究科の教育は指導教官(3名)による共通ゼミナール及び学位論文の作成のための研究指導を中心に行っている。共通ゼミナールの科目は、指導動学生に応じて、各指導教官が決定するため、毎年科目も違い不定期で対象学生も少なく作成していない。

- ・個々の学生の研究に合わせ授業内容も柔軟に対応しているため、シラバスは作成していない。
- ・従前から講義要綱を作成し、授業内容等について情報を提供してきた。なお、講義要綱の内容をより充実したものとするため、現在シラバスの作成にむけて検討中である。
- ・学生便覧の講義題目・概要により周知し、第1回目の講義の際、各授業担当教官が説明を行う。
- ・講義要項で対応することで十分だった。平成8年度から作成する予定である。
- ・平成6年度より6年一貫教育として新カリキュラムになり、各教科目のGIO(一般学習目標)、SBO(個別学習目標)として内容の充実を計り、平成8年度で作成予定である。
- ・講義の形式(演習等)内容等により、一律にシラバス化するのになじまない種類の授業も多いため、目下のところは、概説・概論等やりやすいところから広げていく方向で考慮しはじめているところである。
- ・授業の概要、参考図書等を掲載した「講義要目」を作成している。
- ・「授業要覧」及び「履修の手引き」によって情報提供ならびに履修方法を指示している。
- ・履修要項に授業科目の内容を明記している。
- ・予算の裏付けがないが、シラバスの有用性はほぼ共通に認識されてはいるものの、学部・研究科単位のシラバスは作成されていない。
- ・平成8年度においては、試行的に全学共通科目のみ作成予定。今後は全科目について学内LAN等を活用したシラバスの作成を目指す。
- ・当学部内で作成を担当する委員会が設置されておらず、作成方法、作成方向等の具体案は決定していないが、検討の方向である。
- ・平成8年度の開設科目について作成準備中。
- ・シラバスを作成することについての合意がえられていない。
- ・作成に向け、検討中である。

・理学部「学生便覧」に授業内容一覧として担当教官と講義内容、必修・選択の別を示す他、学科の概要と構成研究室の研究内容を紹介している。

・本研究科は昨年4月に発足したばかりなので、時間がとれなかった。

・本研究科においては、平成5年度に設置されたため、完成年度までは作成しません。

・新設学科の為、全学年がそろそろ平成10年度に作成する予定。

・本学部は、平成7年10月に創設され、平成8年4月より学生の受入れを開始する。平成8年度より発行予定。

・平成9年度作成に向けて掲載内容等について現在検討中。

・新カリキュラムの授業計画が未定のため、現時点では作成できない。

・全学共通科目：学生への情報提供としての必要性は認識されているが、1科目1ページとすると1300ページにも及び持ち運びに不便になることもあり、シラバスのデータベース化により検索する方法と併せて検討中。

・学部改組が進行中で、授業計画等が流動的であるため。

・専門教育を実施するにあたり、「シラバス」が必ずしもなじむとも思われないので。

・研究科として、とくにシラバスの必要性が今のところ認められない。

・医学の急激な進歩のため最新の知識を取り入れる必要があり年度途中で授業計画の変更がよくある。

・文学部の授業形態の大半は、シラバスになじまないと考えているため。

・従来からの講義要項で、内容的には部分的ではあるがシラバスと変わらないので十分に用が足りるため。

・講義予定表を作成しているため。

・学生便覧に概要及び授業科目の一覧等を記載しているため必要なし。

- ・後期課程においては、科目履修よりも研究指導の比重が大きいため、作成の必要度が低いことによる。

- ・大学全体のシラバスに学部のシラバスが含まれている。また、年度始め、学年毎のガイダンスにおいて、説明及び履修指導を行っているため作成していない。

- ・連合農学研究科は、個々の学生に対しそれぞれ特定の教官による教育研究指導体制を取っている。また、入学時及びセミナー開催時(1年次、2年次)に専任教官からガイダンスを行うことによって充分周知している。

- ・獣医学科では作成しているが、学部としては作成していない。他の学科では、教官の協力が得られない。

- ・作成する予定である。